

14	英華字典 An English and Chinese Dictionary		
	G823-11	1866-1869	W.Lobscheid編
	『附音挿図英和字彙』の編集に利用された英華辞典。明治前期の日本の英学者によく利用された。		

- ◆ 編者のロプシャイト(W.Lobscheid)は、中国におけるキリスト教伝道に尽くした宣教師であることは確かであるが、それ以外の経歴については未詳である。

全4冊。標題紙の英文タイトルの前と表紙中央に漢字で「英華字典」の標題がある。本文に先立って、漢字の発音などの表を含む38ページにわたる詳細なINTRODUCTIONが置かれている。本文は、英語の見出し語がアルファベット順に並べられ、漢字で中国語の訳語が発音表記とともに付されている。見出し語だけでなく、そこから派生する語句も数多く取り上げられている。当時、最も完成した英華辞典として評価が高かった。

『附音挿図英和字彙』の編集に当たって本書を利用したことが、訳語の検討から明らかにされている。

- ◆ 当館所蔵本は「浜松瞬養学校印」の印記をもつ（浜松瞬養学校は、明治8年に開校した速成教員養成のための師範学校）。

15	訂増英華字典 An English and Chinese Dictionary		
	A O-8	明治16(1883)	W.Lobscheid原著 井上哲次郎訂増
	ロプシャイトの“English and Chinese Dictionary”を日本人向けに改編したもの。		

- ◆ ロプシャイトの「英華字典」の構成は、英単語を挙げ、それに発音表記を添えた中国語訳を付すというものである。本書は、日本人向けに、原本の中国語訳の漢字はそのまま残し、発音表記を削除して再編したものである。

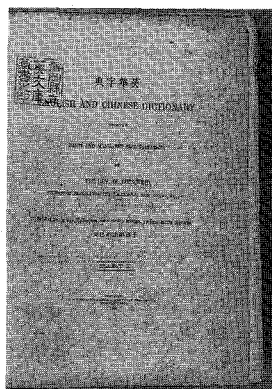
他にロプシャイトの「英華字典」を基にしたものとしては、『英華和訳字典』（明治12）がある。これは、日本人により使いやすいように原本に和訳を加えたものである。

本書の編者である井上哲次郎(1855-1944)は、他に哲学の術語集である『哲学字彙』（明治14）を編集している。

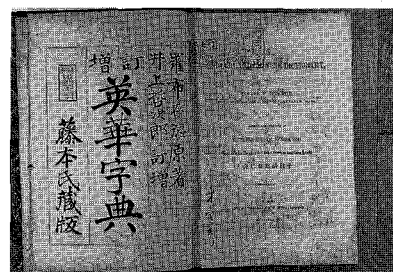
- ◆ 当館所蔵本には、旧蔵所を示す印記等はない。

<参考資料> 『大阪女子大学蔵日本英学資料解題』（830-37）

『蘭和・英和辞書発達史』（830.1-102）



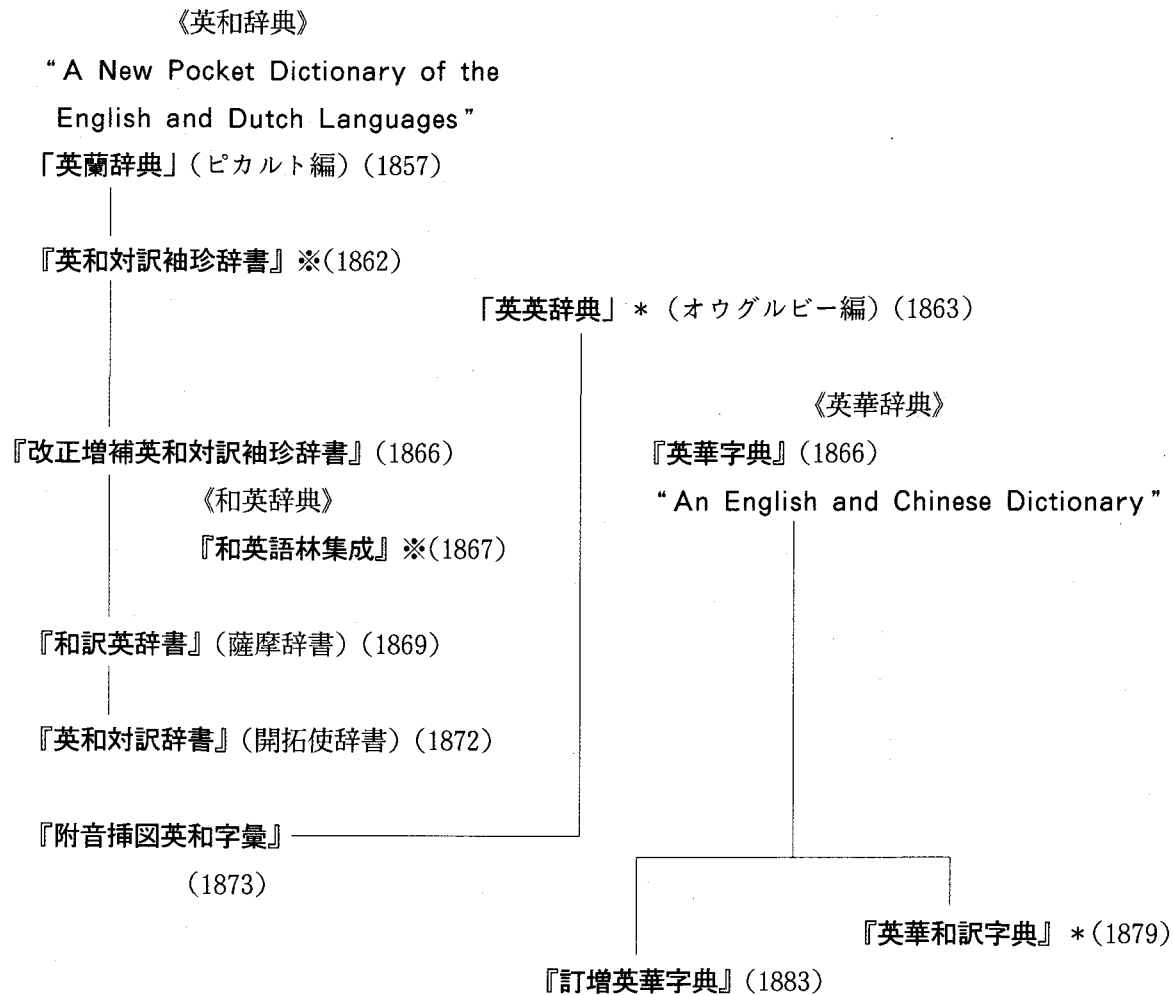
14 英華字典（ロプシャイト編）



15 増訂英華字典（井上哲次郎訂増）

幕末・明治期の英和辞典等の系譜

(* は当館未所蔵資料、※は複製・復刻資料)



ピカルトの「英蘭辞典」を原本とする『英和对訳袖珍辞書』は、その訳語の選択の資料として『和蘭字彙』を主として用いた。そして、同書は様々な改訂・増補版を生んだ。そのうちの一つである『薩摩辞書』に至っては、明治20年まで版を重ねた。『和蘭字彙』が『ゾーフハルマ』(長崎ハルマ)の刊本であり、『ゾーフハルマ』の底本が『ハルマ蘭仏辞典』であることを考えると、明治時代の英和辞典は、幕末の蘭学からいかに大きな恩恵を被っているかがわかる。

一方、『附音挿図英和字彙』は、原本に英英辞典を用いており、蘭学の流れを汲む『英和对訳袖珍辞書』及びその改訂・増補版とはその来歴を異にする。『附音挿図英和字彙』をつくる際に利用されたのが、ロプシャイトの『英華字典』である。この英華辞典は、明治10年代に日本語版が出版されるなど、現代日本語における漢語の重要な供給源になったと思われる。

<参考資料> 『蘭和・英和辞書発達史』(830.1-102)